

クッチャロ湖

(くっちゃろこ)

位置：北緯45度09分、東経142度20分／標高：1～2m／面積：1,607ha／湿地のタイプ：汽水湖、低層湿原／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地：北海道浜頓別町／登録：1989年7月／国際登録基準：2、3、6／EAAFPネットワーク参加地

湿地のタイプ：汽水湖



湖に集結したコハクチョウ (写真：小西敢)



クッチャロ湖 (写真：岡田操)



小沼 (奥) と大沼 (手前)

湿地の概要：

クッチャロ湖は、北海道浜頓別町のオホーツク海沿岸にある周囲30kmの汽水湖で、日本最北の湖である。大沼と小沼の二つからなり、北側と西側を標高10～40mほどの丘陵に囲まれ、東側は砂丘、南側には湿原が広がっている。平均水深は1.5m、もっとも深いところでも2.5mと全体に浅い湖である。

上流部の小沼にはヤスベツ川、オビナイ川、二号沢川、仁達内(にたちない)川、ボン仁達内川、オサチナイ川の6本の川が、下流の大沼へはレカセウシュナイ川と筑紫川が流れ込んでいる。流れ出す川は大沼の東からオホーツク海に流れ出るクッチャロ川だけで、満潮時には海水が大沼に逆流する。

トドマツ、アカエゾマツなどの針葉樹を中心とした北方系森林に囲まれた湖の岸辺には、ヨシの群落が見られる。湖にはさまざまな水生植物が生育し、ヤハズカワツルモやタテヤママリモなどの希少

種も確認されている。

湖内ではスジエビやシジミ、ワカサギなどの漁業もおこなわれている。

日本列島の玄関：

クッチャロ湖は水鳥の渡り鳥の中継地として重要で、ガンカモ類を中心に300種を超える鳥類が確認されている。また、シベリアで繁殖し、日本で越冬するコハクチョウの日本最北の中継地、いわば日本列島の玄関口にあたり、毎年春と秋、約6,000羽のコハクチョウがここに集結する。オオワシの越冬地にもなっている。

ハクチョウへの手助け：

クッチャロ湖は北海道の最北端に位置しているが、対馬暖流の影響で気候は比較的温暖である。とはいえ12月下旬から3月上旬までは約9割が結氷し、1月中旬から3月下旬まではオホーツク海に流氷が接岸することもある。湖が凍結している間、エサがとれなくなるハクチョウのために、1965年ごろボランティアの手によって給餌活動がはじまった。

この活動は、現在も、湖の氷が解けるまでの間つづけられている。その中心となっているのが湖畔に設置された水鳥観察館で、給餌のほか、湖の環境保全、地元の子どもたちへの環境教育などを実施している。こうした活動には地元の漁業組合、農業組合なども参加、協力している。

【コハクチョウの渡り】 コハクチョウは、夏の6月～9月頃、シベリア・ツンドラ地帯で繁殖。10月頃から幼鳥をつれ、樺太沿いに南下し、クッチャロ湖周辺に到着する。ここでいったん休養し、本州などの越冬地へさらに南下する。春の4月～5月頃、再びクッチャロ湖周辺にもどって休養し、北極圏へと帰っていく。クッチャロ湖はいわばターミナル駅である。

●関係自治体

浜頓別町役場 Tel: 01634-2-2345

